

# 私立大学研究ブランディング事業

## 平成30年度の進捗状況

学校法人番号	401002	学校法人名	久留米大学		
大学名	久留米大学				
事業名	すこやかな「次代」と「人」を創る研究拠点大学へ ～先端がん治療・研究による挑戦～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	5986人
参画組織	先端癌治療研究センター、大学院医学研究科、医学部、がんワクチンセンター、大学病院、バイオ統計センター、臨床研究支援センター、人間健康学部、大学院心理学研究科				
事業概要	<p>がんペプチドワクチン等のテラーメイドがん治療の開発普及を推進するとともに、新たな強みとなる潜在的シーズを発掘し、がんの新規治療法や予防法の開発へつなげるモデルを構築する。同時に、組織の教育研究力強化とPR・コミュニケーション活動の強化を進め、「地域に根ざした先端研究」「地域に根ざした医療」を実践し、地域社会経済の発展・深化及び地方創生に全学を挙げて寄与するものである。</p>				
①事業目的	<p>先端癌治療研究センターを中心に、本学の強みであるテラーメイドながん治療の確立に向け、テラーメイドがんペプチドワクチン等の実用化推進と改良・次世代化を進めるとともに、がんの新規診断法や治療法につながるような本学内の研究シーズの発掘と応用展開を進め、学内の資源・人材を戦略的に活用しながら、様々な課題解決に取り組む。</p> <p>ブランディング戦略をとおして、「すこやかな「次代」と「人」を創る大学」というブランドの形成を図る。</p>				
②30年度の実施目標及び実施計画	<p><b>&lt;研究の目標&gt;</b>  <b>プロジェクト1</b>：①テラーメイドワクチンの適応拡大のための臨床データの蓄積②次世代がんワクチンの標的分子の探索方法プロトタイプ動物モデルでの確立  <b>プロジェクト2</b>：①「New FP」療法のさらなる普及「New FP」療法を実施できる若手医師を2年間で少なくとも3名養成する②治療抵抗性の解明：「遺残肝がん細胞」と「周辺組織」との相互作用解明  <b>プロジェクト3</b>：・複数講座で実施中のシーズから発掘・育成用暫定運用システムの確立  <b>プロジェクト4</b>：・文医融合分野創造部会：年6回程度開催  <b>&lt;ブランディング戦略の目標&gt;</b>          ・本学のブランドイメージの学内における周知及び学外への発信</p> <p><b>&lt;研究の実施計画&gt;</b>  <b>プロジェクト1</b>：①テラーメイドがんペプチドワクチンの医師主導臨床研究を継続実施するとともにその成果を学会及び英文査読誌に発表する。②効率的にネオアンチゲンを同定する方法を動物モデルで確立する。  <b>プロジェクト2</b>：①「New FP研究会」（若手医師向け）を開催。②レーザーマイクロダイセクション法を用いて採取した「遺残肝がん細胞」と「周辺組織」の網羅的遺伝子解析を行い、双方の生存に必須のシグナル伝達系およびその中枢因子を同定する。これらの成果は学会発表や英文査読誌に発表する。  <b>プロジェクト3</b>：平成30年度は2課題をパイロットスタディとして選定。  <b>プロジェクト4</b>：意見交換会を数回開催するとともに、文医融合分野創造部会に昇格させ、活動目標・計画を具体化する。  <b>&lt;ブランディング戦略の実施計画&gt;</b>          ②研究成果の公表（プレスリリース、学会発表、大学のホームページ、市民公開講座等）を年1回以上行い国内外に広く発信する。③がん教育・啓発活動としての市民向け大学病院見学会、市民公開講座（各年1回以上）、サイエンス・カフェ（年10回程度）等を開催する。④医療従事者向け教育・普及活動を目的とした研修会を開催（年4回）する。⑤患者・患者家族への先端がん医療等に関する情報提供・相談活動（年5回以上）を実施する。⑥がん教育・啓発活動としての高校生向け出前授業（年10回程度）を実施する。⑦本事業の独自色を各種媒体（入試案内（年1回発行）、大学広報誌（年4回発行）、研究ブランディング事業ホームページ、高校訪問時の資料等）でアピールする。⑧研究者・研究室をリレー方式で大学のホームページ等において紹介する。⑨新聞・テレビ等を活用した情報発信を行う。⑩学内シンポジウムを開催する（年1回）⑪健康コラム特別号発刊⑫「地域を創る久留米大学の挑戦」の発刊⑬ブランディングムービー制作</p>				

<p><b>③ 30年度の事業成果</b></p>	<p><b>&lt;研究活動の成果&gt;</b>  <b>プロジェクト1:</b> ① テーラーメイドがんペプチドワクチン単独療法の医師主導臨床研究の新規患者登録は終了。成果は学会及び英文査読誌で発表した。導出先ベンチャーにてワクチンと免疫チェックポイント阻害剤との併用試験が米国で実施中。② 次世代ワクチン標的分子同定法のプロトタイプを動物モデルで確立中。あわせて、併用療法の動物での基礎研究を実施中。  <b>プロジェクト2:</b> ① 「New FP研究会」を発足し、研究会を5月26日に開催。参加施設は全国から13施設。若手医師を2年間で3名養成中。また、「New FP」療法の前向き臨床研究を開始した。「The 10th East Asia Region for HCC in Kurume」を平成31年3月9日開催。② 「遺残肝がん細胞」と「周辺組織」のシグナル伝達系及びその中枢因子同定を実施中。成果は学会及び英文査読誌で発表した。  <b>プロジェクト3:</b> 学内公募(3月15日～4月16日)を行い、16課題の応募があった。2件を選定し研究が開始された(研究期間は3年間)。  <b>プロジェクト4:</b> ・意見交換会を5月及び7月に開催し、「がんの治療における心のケア」、「がん看護の現状と課題」、「サルコペニアについて」、「スポーツ医科学科について」、「がんに関する心理学的研究」、等の話題が提供された。  ・平成31年度大学公開講座「がん患者の心のケア」を開催することが決定した。[テーマ(6項目)]①「プロローグ「がんと心」：山田亮教授(先端癌治療研究センター)」、②「がんと心のケア：堀川直希院長(久留米厚生病院・院長/医学部・神経精神医学非常勤講師)」、③「がんと共に豊かに生きる：原頼子教授(医学部・看護学科)」、④「がんとポジティブ心理学：津田彰教授(文学部)」、⑤「がんにも負けない身体づくり：川口巧講師(医学部・内科学(消化器))」、⑥「がん患者のアピアランスケア：廣畑主任看護師(腫瘍センター看護部)」</p> <p><b>&lt;ブランディング活動の成果&gt;</b>  ② 研究成果の公表：リサーチレポート2017を刊行した(9月)  ③ がん教育・啓発活動：(ア) 研究ブランディング事業採択記念セミナー「医療と社会をつなぐ」(7月26日)を開催した。(イ) 先端癌治療研究センター市民公開講座「がん治療の最前線-大腸癌-」(10月13日)を開催した。(ウ) 腫瘍センター主催の市民公開講座「がんになっても働きたい-仕事と治療・くらしをつなげるために」(1月27日)を開催した。(エ) 市民対象セミナー「カフェで学ぼうがんのこと」を10回開催した。  ④ 医療従事者向け教育・普及活動を目的とした研修会：(ア) 「New FP研究会」(5月26日)を開催した。(イ) がんワクチンセンター主催の「久留米がんワクチン研究会」開催(7月21日)を開催した。  ⑤ 患者・患者家族への先端がん医療等に関する情報提供・相談活動：(ア) 腫瘍センター主催「がん教室」を12回開催した。(イ) 筑後地区がん診療拠点病院「がんサロンちっこ」にてがん相談支援活動を実施した。  ⑥ がん教育・啓発活動：(ア) 高校生向け出前授業(10月から12月)を県内公立高校7校、私立1校に実施した。(イ) 教員向けとして、教員免許更新講習(12月)を御井キャンパスで開催した。(ウ) 養護教諭に特化した研修会での講演(2月22日)を実施した(福岡県高等学校養護教諭研究会及び同私学部会にて講演)。  ⑦ 本事業のアピール：(ア) 32年度大学・入試案内、大学広報誌に掲載した。(イ) 研究ブランディング事業ホームページを充実させた。(ウ) 高校訪問時に本事業活動資料を配布した。  ⑧ 研究者・研究室をリレー方式で本事業ホームページにおいて紹介した。  ⑨ 新聞・テレビ等を活用した情報発信：(ア) 日本経済新聞(4月)、読売新聞「大学の實力」(6月)、朝日新聞「大学力」(7月)で研究ブランディング事業に関する記事を掲載した。(イ) 日経ユニバーシティコンソーシアム「医療と社会をつなぐ」～先端医療研究のビジネスシーズを探る～(7月26日開催)を実施し、日本経済新聞に掲載した。(ウ) テレビ局や新聞社の関係者を本学福岡サテライトに集め、本学の情報を発信する取り組みを定期的実施した。  ⑩ 学内シンポジウムの開催：毎日新聞と、先端癌治療研究センター所長らによる鼎談形式による企画(12月)をシンポジウムとして実施し、学内外に発信した。  ⑪ 健康コラム特別号を3月に発刊し、学外に配布した。  ⑫ 「地域を創る久留米大学の挑戦」の創刊：研究ブランディング事業を中心に本学のPR要素をまとめた「KURUME UNIVERSITY ISM」を3月に発刊し、学内外に配布した。  ⑬ ブランディングムービー制作：大学の概要および研究ブランディング事業を紹介する動画を制作し、YouTube上にアップし、本学HPでも紹介した。  その他：「My Innovation」プロジェクト：誰もが自分の夢や社会の理想について自由に発信することによりブランディング事業に参画でき、意識を共有できるサイトを立ち上げた。</p>
<p><b>④ 30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</b></p>	<p><b>(自己点検・評価)</b>  研究活動においては、すべてのプロジェクトが計画どおり実施された。また、申請書記載の計画に加え、文医融合分野の新領域研究を開始するための文系と医系研究者による継続的な意見交換会を開催することができ、新たな市民公開講座等の実施計画も立てることができた。また、「New FP研究会」では、東アジア各国の研究者との研究発表情報交換ができた。  ブランディング活動においては、実施計画13項目中、12項目が実施され、新たな取り組み「My Innovationプロジェクト」もスタートさせた。今年度、「がん教育・啓発活動としての高校生向け出前授業」を、8校で実施することができた。次年度実施に向け、募集案内を全県立高校、私立高校、久留米コンソーシアム関連校へ送付した。</p> <p><b>(外部評価)</b>  研究活動とブランディング活動のそれぞれについて外部評価委員会を開催した。  研究活動においては、シーズ探索の両研究ともに顕著な研究成果が見られる。また、論文発表を行うことでより評価できると思われ、両研究ともに今後の継続を期待する。研究活動に関しては概ね順調に進んでいるとの評価に加え、ブランディング活動に関しては、がん教育や啓発活動、医療従事者向け教育普及活動、研究者紹介などの活動について高い評価を受けた。一方で、医系にとどまらない総合大学としての発信とするための工夫や、研究成果を一般に広く発信する学内体制の強化やプレスリリースのあり方の検討などの課題が指摘された。</p>
<p><b>⑤ 30年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>《研究活動》  研究費、特定教員(助教)・事務職員人件費、外部評価委員謝金・旅費及び研究設備運営費(N-Counter)  《広報・普及活動》  市民公開講座・セミナー等の開催諸経費、ホームページ作成費・維持費</p>